

時の動き

第93回日比谷メーデー開催

東日本NTT関連合同労働組合・委員長

奥山 信義

3年ぶりのメーデー開催

5月1日、日比谷メーデーは3年ぶりに一般参加者を会場に入れての開催となった、入場制限はあったものの会場はほぼ埋まり、久しぶりに賑やかな雰囲気にも包まれた。

メーデーは、1886年シカゴの労働者が8時間労働制を求めてストライキを闘ったことが始まりだ。当時の平均的な労働時間は12〜14時間だった。今ではあたりまえとなっている8時間労働制は最初からあったものではなく、労働者が自ら闘い実現したものだ。今日の新自由主義下では、労働運動の後退と新型コロナウイルス感染拡大とが相まって

首切り・解雇、契約打ち切り、雇止めなどが横行している。4割を超した非正規労働者・未組織労働者は「自己責任」という犠牲を押し付けられ、声さへ上げづらい世相となっている。

育休取得で不当解雇を闘う

主権者あいさつに立った鎌田博実行委員会共同代表は「今こそ、貧困と格差社会反対、憲法改悪反対、震災復興脱原発、平和と民主主義を掲げ、すべての労働者市民、戦争に反対する全世界の人々と共に闘おう」と呼びかけた。外国人労働者・争議団の発言では、「三菱UFJモルガンスタンレー証

券」のグレン・ウッドさんが長男の手を引きながら壇上上がった。グレンさんは「この子が生まれるとき難産だったため、育休を申請したが拒否された。それどころか報復ハラスメントで解雇されてしまった。解雇撤回を求めて裁判を6年間闘っている。

素晴らしい育休制度ができていのになぜ使えないのか、子どもが出来たら仕事が続けられないのはおかしい。これは家族・子どもの為でなく、日本の将来、会社の将来の為に頑張りたい」と訴えると、会場から、大きな拍手が起きた。



日比谷メーデー、グレン・ウッドさん親子（2022・5・1）

メーデーアピール

採択されたメーデーアピールでは、「ロシア軍のウクライナ侵攻に反対する」とともに戦闘行為の即時停止と核使用を許さず、武力による解決ではなく対話の外交を実現させなければなりません。」とし、「庄殺に抗して闘う世界の人々と国際連帯を強化していく、働

く者の団結で生活と権利、平和と民主主義を守る闘いに決起していきます」と力強く「闘いの広場」と位置付けている。

メーデーは世界の労働者が団結して闘う国際統一行動日だと思いきそう！

右翼の妨害をはねのけて

この日は、日比谷メーデー始まって以来の右翼の激しい妨害行為があった。10台近い右翼街宣車の大音響だけでなく、構成メンバーが押しかけて集会警備のメンバーともみ合うシーンもあり現場は騒然とした。このため行進出発が遅れた、許されないメーデー破壊行為だ！

首相官邸前での抗議行動

メーデー終了後、全国一般東京東部労働組合と全国一般・労働者組合が呼びかけ労組・団体が雨の中を首相官邸前に結集し抗議行動を行った。「戦争

を直ちに止めろ！」「日本政府は戦争に加担するな！」のシュプレヒコールが永田町に響き渡った。

戦争で命と暮らしを奪われるのはいつも労働者民衆だ。先の戦争では310万人もの尊い命を失った。国外の戦地や海上・ジャングルで、国内では空襲や原爆の犠牲となった。その反省から非戦の誓いとして日本国憲法が生まれた。

沖縄戦の教訓

5月15日は沖縄の施政権が日本政府に返還され50年になった。沖縄戦では、わずか2カ月の戦闘で20万人もの命が奪われた。「軍隊は決して住民を守らない」が沖縄戦の戦後沖縄の人々の教訓だ。武力で国は守れない！武力で平和は築けない！という声を上げていこう！

（おくやま のぶよし）